

# 平成20年度 上期（第4回） 「M-1グランプリ」報告書



“小さな気づき” から “大きな成果” まで、  
日々の業務を行う中で実践した取組みの成果報告です。

平成20年10月

浜田市総合調整室

## 1. 「M-1 グランプリ」とは

市民へ質の高い行政サービスを提供していくためには、職員が前向きにやる気（Motivation）を持って業務に取り組むことが不可欠です。同時に積極的に業務に取り組み成果をあげた職場（職員）を評価することが重要であり、評価を通じた組織全体の活性化（やる気の相乗効果）をはかることが重要です。

このため、浜田市では、平成19年1月から“小さな気づき”から“大きな成果”まで、日々の業務を行う中で職員が実践した取組みの成果を募集し、優秀なものについては、市長（Mayer）が職場を表彰する「M-1 グランプリ」を展開しています。

### \*事業の名称について

職員のやる気（Motivation）を高め、市長（Mayer）が職場を表彰するという事業趣旨から、それぞれの頭文字「M」をとり、「M-1 グランプリ」という名称に決定しました。

## 2. これまでの「M-1 グランプリ」

「M-1 グランプリ」は、対象期間中に取り組んだ（又は成果の出た）業務等を対象に、庁内募集を行い「職場単位」で成果報告をしていただきます。

報告のあった成果について、市民サービスへの寄与度・事務改善への貢献度・先進性等を、課長会議等で総合的に審査し、最も優れた成果に「M-1 グランプリ（最優秀賞）」を授与しています。

### ● 第1回：平成18年度 第四半期

報告件数： 10課14件

最優秀賞： 「手話をコツコツ実践、窓口対応アップ」（市民福祉部健康長寿課）

取組概要： 来庁される聴覚障害者とのコミュニケーション向上を図るため、“一日1手話”を目標に、毎朝のミーティングで職員が手話習得に励んだ取組み。

### ● 第2回：平成19年度 上期（4月～9月）

報告件数： 4課5件

最優秀賞： 「どぶろくの里づくり」（弥栄支所産業課）

取組概要： 「おいしい空気、おいしい水、おいしい米、そしておいしい人」という弥栄自治区の地域特性を活かして、都市農村間交流の推進、特産品の開発等を手がけた取組み。

### ● 第3回：平成19年度 下期（平成19年10月～平成20年3月）

報告件数： 5課6件

最優秀賞： 「地域づくりは地域住民の手で!!」（旭支所自治振興課）

取組概要： 平成17年から取り組んだ「市木地区まちづくり支援事業」により、地域自治会が自ら行う地域活動、地域情報誌「ほたる」（月刊）の発行等を支援した取組み。

最優秀賞： 産業経済部除組織検討プロジェクト（産業経済部）

取組概要： 産業経済部内の若手職員が自発的に部内の組織体制を検討し、部長に報告書を提出。その報告書(案)をもとに機構改革の検討を行い、平成20年4月の機構改革に反映した。

※審査の結果、得票数が並んだため2件の取組みが最優秀賞を受賞しています。

### ● 第4回：平成20年度 上期（平成20年4月～平成20年9月）

報告件数： 3課3件

最優秀賞： 「食文化の融合で観光PR～海鮮うずめ飯」（産業経済部観光振興課）

取組概要： 観光客誘致に欠かすことができないのが「食」である。有志によって活動している食フェスタ実行委員会で、食文化の見直しと掘り起しに取り組む中、市町村合併により海と山の食文化が融合した新たな食への取り組みを目指している。そうした中で、古くからの伝統的な郷土料理の「うずめ飯」と新鮮な海の幸を融合させた「海鮮うずめ飯」を考案した。

## 3. 第4回「M-1 グランプリ」報告案件

受付順

- 【1】 学校用務員共同作業で施設改修 （教育部教育総務課（金城分室））
- 【2】 配水池壁面の有効活用による浜田市のPR （水道部工務一課）
- 【3】 食文化の融合で観光PR ～ 「海鮮うずめ飯」 （産業経済部観光振興課）

<p>(1) 担当部課</p>	<p><b>教育部・教育総務課(金城分室)</b></p>
<p>(2) タイトル</p>	<p><b>学校用務員共同作業で施設改修</b></p>
<p>(3) 取組概要</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>学校用務員部会では、毎年、各ブロックごとに研修や共同作業(草刈り、樹木の剪定等)を実施しています。今年度金城ブロックでは、初めて共同作業として、学校施設の本格的改修を実施しました。</p> <p>今回実施したのは、金城中学校の自転車置き場の屋根改修(屋根全面のトタン板張替え作業)です。学校が夏季休業に入った7月24日の9時から15時まで、13名の用務員が、講習を受けながら作業に取り組みました。</p> <p>自転車置き場は、平屋トタン葺き一棟で80㎡(幅4m×長さ20m)です。トタンの破損・腐食が激しく、屋根にいくつも穴が開いていました。</p> <p>腐って錆ついていた亜鉛トタン板のはぎ取り、片付け、すじかいとハブ板の取替え、墨付等の作業を行い、その後、ポリカ製波板トタン(72枚)を打ちつけて屋根を完成させました。ポリカ製波板トタンは、亜鉛トタンに比べ値段は高いですが、耐久性に優れ明るいという利点があります。</p> <p>当日は、真夏日となりましたが、金城ブロックだけでなく、近隣の用務員も集まり、総勢13名での作業となりました。</p> <p>全員怪我もなく、以前とは見違える施設となりました。</p> </div> </div> <div style="width: 45%; margin-top: 20px;">  </div>
<p>(4) 成果</p>	<p><b>共同作業による経費節減と職員意識の高揚</b></p>
<p>(5) 成果詳細</p>	<p>今回の取り組みの成果として、次の二つのことがあげられます。</p> <p>① 経費節減 半額以下で作業完了</p> <p>当初の業者見積(通常の波板トタン)では、約31万円でした。今回は原材料費の141,015円(ポリカ波板トタンとしたため少し費用が多くなった。)で、すべて完成しました。</p> <p>② 職員の意識高揚と存在アピール</p> <p>学校用務員は、1人配置でもあり、意識高揚や存在アピールを示すことが難しい職種です。今回、共同作業として施設改修に取り組んだことで、用務員としての意識の高揚を図ることができたと思います。あわせて、職員としてのスキルアップの手段にもなりました。金城中学校の校長先生からは「明るくきれいになり、助かりました。生徒たちにも大切に使用するよう伝えます。」とおほめの言葉を言われ、用務員の存在をアピールする一つの手段となったのではないかと思います。</p>
<p>(6) 備考</p>	<p>作業日時 平成20年7月24日(木) 9時~15時30分          作業場所 浜田市立金城中学校 自転車置き場          作業内容等 自転車置き場屋根改修(トタン張替作業)</p>

<p>(1) 担当部課</p>	<p><b>水道部 工務一課</b></p>
<p>(2) タイトル</p>	<p><b>配水池壁面の有効活用による浜田市の PR</b></p>
<p>(3) 取組概要</p>	<p>現在築造中の竹迫配水池は、竹迫団地内にある典礼閣に隣接し、国道 9 号バイパス下り線から見通しの良い場所に位置し、その概要は直径 32m、側壁高さ 8.6m、有効容量 6,000 m<sup>3</sup>の円筒形 PC タンクである。</p> <p>国道 9 号バイパス向きの壁面の面積約 58 m<sup>2</sup>(縦 4.9m、横 11.9m)の 2 面をただ単に塗装するのではなく、浜田市及び水産都市浜田をアピールできる広告等何か有効活用できないものかと考え、水産課をはじめ市役所内部の関係部署に照会したところ、(株)はまだ特産品センター(おさかなセンター)から 1 面について使用することを了解いただき、広告面として使用することにした。</p> <p>公共施設なので、広告は浜田市を宣伝するものとし、一般公募しなかった。</p> 
<p>(4) 成果</p>	<p><b>壁面を広告面として提供することにより、年間 85,260 円の収入を得ることができる</b></p>
<p>(5) 成果詳細</p>	<p>1 壁面を広告面として提供することにより、年間 85,260 円の収入確保となった。 【占用料金 85,260 円/年 [58(m<sup>2</sup>) × 1,400(円/年)+消費税額]】</p> <p>2 残る 1 面の利用法として、どんちっち三魚を描くことにより、(株)はまだ特産品センターの広告との相乗効果を生み、水産都市浜田を PR することに寄与する。</p>
<p>(6) 備考</p>	

<p>(1) 担当部課</p>	<p><b>産業経済部 観光振興課</b></p>
<p>(2) タイトル</p>	<p><b>食文化の融合で観光PR ～「海鮮うずめ飯」</b></p>
<p>(3) 取組概要</p>	<p>観光客誘致に欠かすことができないのが「食」である。</p> <p>現在、有志によって活動している食フェスタ実行委員会で、食文化の見直しと掘り起しに取り組む中、市町村合併により海と山の食文化が融合した新たな食への取り組みを目指している。そうした中で、古くからの伝統的な郷土料理の「うずめ飯」と新鮮な海の幸を融合させた「海鮮うずめ飯」を考案した。</p> <p>名物料理の必要性は、旅行情報誌の編集者からも指摘があり、浜田市をPRする上で必須である。(写真は、千畳苑のうずめ飯)</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>① アイデアを持って飲食店を回り、賛同を得られた店舗にメニューに加えていただいた。</li> <li>② うずめ飯の基本は守ってもらうが、仕様は料理人のアイデア次第でオリジナリティーを出す。</li> <li>③ メディアを活用し、九州・広島・岡山を中心にPRを行った。</li> <li>④ 地元ケーブルテレビを活用し、PRを行う。</li> <li>⑤ 職員自らも各店舗の「海鮮うずめ飯」を食べてまわり、口コミの宣伝活動をしている。</li> <li>⑥ 各店舗共通の認識を図るため、お客さま向けに「海鮮うずめ飯」の説明文を作成、配布した。</li> </ol> <p>※「うずめ飯」は、旧津和野藩の流れを持つ食文化で、質素儉約を心がけていた江戸時代中期頃、役人から贅沢を隠すために生まれたとか、肉を口にしない時代に肉を食べるために生まれたと言われ、浜田市では弥栄町と金城町波佐地区に伝え残っている。昭和14年に当時の宮内省が調査し発表した全国郷土料理調査で「全国五大銘飯」に認定されている。</p>
<p>(4) 成果</p>	<p><b>9月より市内8店舗にて販売開始。</b></p> <p>※市内(しまねお魚センター、ゆうひパーク浜田、国民宿舎千畳苑、ホテル松尾、さか本) 弥栄(陽気な狩人、香花茶屋)、三隅(まるやま旅館)</p>
<p>(5) 成果詳細</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 広島、岡山のTV取材もあり、放映後すぐに反響があった。</li> <li>② 大手旅行雑誌の掲載後も、視聴者からの反響があった。</li> <li>③ わざわざ岡山県より食べに来られたお客さんや、遠方より予約が入っている。</li> <li>④ バスツアー等の団体のお客さまへの昼食メニューとして、選択性ではあるが取り組む店舗も出てきた。</li> <li>⑤ 取り組みをしたいという新たな店舗が出てきた。</li> <li>⑥ 店舗によって工夫を凝らしているので食べ歩きができ、飽きが来ない。</li> <li>⑦ 同じメニューを他店舗でも作ることで、競争力がつき商品の質が向上する。</li> <li>⑧ 市民が地域の食文化を理解することへの寄与、また観光面からも名物料理を求めた観光客の誘致。</li> </ol>
<p>(6) 備考</p>	